

資料 1

「訓練適応確認問題」の仕様（「訓練適応確認問題とその作成手法」）

平成 21 年 2 月 9 日

「訓練適応確認問題（仮称）」の仕様

（研究会の共通認識）

（1）離職者訓練の受講要件

離職者訓練を受講する者の要件は、通達等により、

- ① 職業に必要な技能・知識を習得して就職することを望んでいる者（以下「就職意欲」）
- ② 訓練を受講することに熱意がある者（以下「受講意欲」）
- ③ 訓練を受講するのに必要な学力を有すると認められる者

（2）問題の所在：訓練コースの受講要件に合わない受講者の存在

「真に訓練コースの受講が必要であると認められない者が受講している」という指摘：

- ① すでに訓練コースの仕上がり像以上の技能等を有する者が受講
- ② 訓練修了後に直ちに就職する必要がない者、就職する予定がない者が受講
- ③ 就職を希望する職種と関連のない技能、知識を習得する訓練コースを受講
- ④ 雇用保険の給付延長を目的として訓練コースを受講

（3）「（就職・訓練の）意欲」は、訓練効果（訓練によって受講者のスキルが向上し、それにより関連職種に就職すること）に最も関係

当該職種への就職や訓練への意欲の高い人は、選考前から受講希望する訓練コースの内容や受講後の関連就職の分野等を調べている傾向があり、習得意欲も高いので訓練効果も高い。

（訓練科によっては、最低限のレディネス及び専門的知識、学力が訓練効果を左右する場合有り）

（4）適性検査（GATB が一般的）は、「（就職・訓練の）意欲」の確認には不向き この適性検査（GATB）の元々の使用方法は、あるレベル以上だとその職業に関する適性が認められるというもの。

学科試験と同様に順位付けするためのものではない。よって、適性検査による順位付けは本来の使用法ではなく、必ずしも適当ではない。

（5）留意事項

訓練適応確認問題を実施する際には、離職者訓練の目的と受講要件について受講希望者に説明し、その要件の確認のために実施することを説明することが必要。

1 「訓練適応確認問題（仮称）」（以下「確認問題」という。）の目標

(1) 確認問題により、職業訓練の受講希望者に関して以下のイ～ハの事項について把握・確認し、関連職種への就職意欲及び訓練受講意欲の度合いを測定・把握できること。

イ 訓練により習得する技能・技術・知識についての理解・興味・関心の度合い

ロ 訓練内容に関連する分野についての理解・興味・関心の度合い

ハ 訓練により就職可能な職種についての理解・興味・関心の度合い

ニ 訓練受講希望者の訓練内容に関するレディネス及び訓練受講に必要な最低限の学力等の度合い（入所後の訓練受講時の指導にも活用）

(2) 訓練受講希望者に対して、確認問題の結果について、納得できる説明ができる。

(3) 問題漏洩に対応できる。

（確認問題を多数作成しておき、その都度問題を選定し、問題漏洩への対応を図る。また、漏洩することを前提として定期的に新たな問題を作成・追加する。）

2 実施対象者

ハローワーク等で就職相談または職業訓練に関する相談を行い、離職者訓練を受講希望する者（年齢・性別の制限なし）

3 使用方法

面接試験を保管するための就職意欲・訓練意欲を確認するため筆記問題として使用する。

確認問題は、可能な限り、面接前に実施して面接担当者がその結果を参照しながら面接する。面接の際は、面接担当者による不適切な質問を避け、評価結果のばらつきがないよう聞き取り項目と評価基準と評価のしかたを標準化する。

4 確認問題の所用時間

活用する場面に応じて問題数を増減し、約 20 分～60 分を想定

5 実施結果の採点・集計等

採点・集計等が簡潔にでき、結果を数値化できること。

6 確認問題の区分

訓練科ごと、次の区分ごとに、作成する。

(1) 訓練科に関する確認問題（訓練内容等）

(2) 訓練科の修了により就職可能な職種及び関連職種に関する確認問題

(3) 訓練受講に要するレディネス及び最低限の学力等

7 確認問題の作成方法

(1) 設問の形式

次の①～④のような形式の問題を各複数作成

① 記述式

長文による記述式はできるだけ避け、簡潔なキーワードや短文（文字数がある程度制限するなど）による回答によって確認

② 選択肢群から選択

数多い選択肢群から正答を選び出す方式

③ 択一式問題

五者択一、四者択一など

④ 基礎的学力の検査との組み合わせ

訓練科の理解または就職に関する設問と併せて、漢字の読み書き、簡単な計算問題等との組み合わせ

(2) 訓練科に関する確認問題（訓練内容等）

次の①及び②に関する問題を上記（1）の方法で設定する。

① 知識の確認

(例 1) 訓練科に関する用語の知識（対語など）

(例 2) 訓練科に関するキーワードに対する言葉の連想

(例 3) 道具（工具等）名称からそのイメージ、作業内容の確認

② 訓練内容への意欲・意識の確認

訓練内容の理解度を確認するために、訓練科ごとに習得できる専門的知識及び技能・技術に関する設問

(例 1) 一番習得したい訓練内容

(例 2) 習得した専門的知識及び技能・技術の活用の仕方

(例 3) 習得した訓練内容が実務で活用される場面など

(例 4) 訓練科に関係する能力で自らが不足していると感じている能力

(例 5) 訓練科に抱く夢、希望、目標

(例 6) 訓練科を受講する目的

(例 7) 訓練修了時に習得しておきたい職業能力（特に自らが向上させたい職業能力）

(例 8) 訓練中に取得できる資格の種類、その概要

③ 取り組み方（行動）の確認

(例 1) 訓練科に関係する能力で自らが不足していると感じている能力とともにその実現のためにどのような努力（具体的な取り組み）を行うか。

(例 2) 目標達成するために既に取組んできた事項、今後取り組もうと予定している事項

(例 3) 訓練中の取り組みイメージ（箇条書きで各項目の文字数を制限）

(例 4) 訓練科に関して調べた情報源

(例 5) 日常的に閲覧している Web サイトと興味・関心がある Web サイトと

の理由

(3) 訓練科の修了で就職可能な職種及び関連職種に関する確認問題

① 知識の確認

(例1) 就職先として興味を抱いた企業名と、その仕事内容・求められる専門的知識及び技能・技術

(例2) 仕事内容

(例3) 求人票等に記載されている条件面など

(例4) 職業のイメージを絵で描き、絵からそのイメージを説明する作業名や職業名などのキーワード及び記述問題

② 当該職種への意欲・意識の確認

(例1) 5年後の職業生活のイメージ（箇条書きで各項目の文字数を制限）

(例2) 一番就職したい職業

(例3) 就職に抱く夢、希望、目標

(例4) 就職する際に必要な資格試験の種類、その概要

③ 取り組み方（行動）の確認

(例1) 就職先の業界、職業、仕事内容等を調べた情報源

(例2) 日常生活上での仕事に関係する興味、関心、取り組み（パソコンをよく活用している、工作が好き、ビデオ・テレビなどの家電操作が好き）

(例3) 就職活動として、取り組んできた項目

(4) 訓練受講に要するレディネス及び最低限の学力等

① 基礎学力の確認

(例1) 訓練受講に必要な最低限の基礎学力（計算能力、読解力、文章能力）

② 社会人基礎能力の確認

(例1) 社会人として最低限必要とされる能力（列挙させる数を制限）

(例2) 就職が未だ確定しない原因の理解と把握

(例3) 就職に対する意識（安易又は熟慮等）

③ 訓練科の受講に必要なレディネス

(例1) ものづくり関係の職種に共通な基礎能力

・ 数理能力 → 文章問題の計算（算数応用問題）など

・ 空間判断力 → 展開図の立体形探し検査など

・ 形態知覚力 → 同じ図形を探す検査など

(例2) その他、訓練科ごとに、当初の訓練目標、訓練効果のために必要なレディネス（例：組込みマイコン科 → 一定のパソコン活用スキル）

8 確認問題の効果

(1) 定性的効果

- ① 受講を希望する職業訓練コースの理解と、希望する就職先の職業理解とその職業生活に対する意思等を確認することにより、訓練コースとのミスマッチの減少

- ② 受講者の訓練受講意欲の向上
 - ③ 受講者の就職意欲の向上
 - ④ 訓練受講意欲・就職意欲の低い受講者が減少することにより、受講中の訓練環境（雰囲気）の改善
 - ⑤ 入所選考を巡る苦情等の減少
- (2) 定量的効果
- ① 就職率・関連就職率の向上
 - ② 満足度の向上
 - ③ 習得度の向上

9 確認問題の改善

確認結果と受講者の受講態度、習得度、就職状況等についての相関性を分析・検証して、確認精度の向上を図る。